

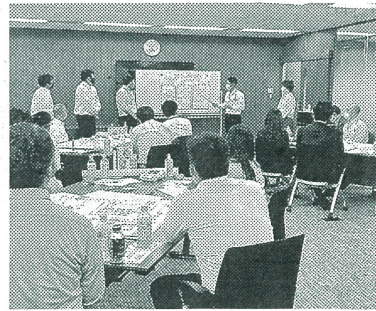
効率化や省人化議論

三井住建道路らがイノベーションワークショップ

三井住建道路、立命館大学、西尾レントオールは26日、東京都新宿区の三井住建道路本社で3者共同による「建設イノベーションワークショップ」を開いた。建設分野でのイノベーション人材の育成に向けて「自らの現場の効率化を考える（課題は何か？ それをいかにして解決するか？）」をテーマに設定。講義やグループワークなどを通じ、効率化や省人化の方法を考

えた。

ワークショップには、三井住建道路から技術・事務系社員16人、西尾レントオールからICT系社員4人の計20人が参加した。冒頭、三井住建道路の蓮井肇社長が「新しいこと、変化を伴う課題は組織も個人も積極性を持ち多少前のめりになり自発的に自ら考えて自分事として取り組まないとなかなか進まない。本日のワークショップが有意義なものとなることを期待している」と述べた。グループワークは参加者が四つの班に分かれ、工事



効率化の提案内容を発表した。写真。表彰では、準優勝（西尾レントオール賞）に安全管理や測量など現場課題を解決するツールを社内発信して使用方法や勉強会で共有することを発表した4班が、優勝（社長賞）

は現場をライブ配信し現場を管理する方法などを提案した2班が輝いた。

参加した社員からは「今回話した内容や問題を解決できるような仕事に取り組みたい」「議論した内容や吸収したことを共有したい」との感想が聞かれた。講評で立命館大学総合科学技術研究機構・教授の建山和由氏は「このワークショップで得たことを持って帰って広めるといふ雰囲気が出る」といい。議論した内容や取り組みを前向きに検討してもらえと「うれしい」と期待を込めた。

現場の効率化テーマ にワークショップ

三井住建道路ら

三井住建道路は、立命館大学、西尾レントオールとの共催で、東京都新宿区の本店で「自らの現場の効率化を考える」をテーマに、技術系、事務系、ICT系の社員による現場イノベーションWS（ワークショップ）を開いた。

WSは、同社がICT技術の推進に一層力を入れるため、今後のICT技術の展開について検討・提案を行い、ICT技術推進の方向性を確認することを目的としてい



最優秀賞のチームと多々良所長(右)

る。

冒頭、蓮井肇社長は「新しいことや、変化を伴う課題は、組織も個人も積極性を持って多少前のめりになり自発的に自ら考えて、自分事として取り組まないとなかなか進まない。本日のワークショップが有意義なものになることを期待している」とあいさつした。

続いて、建山和田立命館大総合科学技術研究機構教授の講義などが行われ、その後、同社の技術系社員3人、事務系社員1人、西尾レントオールのICT系社員1人の5人で構成する4つのチームが、現場の効率化、省人化のための具体的な提案づくりを行い、工夫を凝らした発表を行った。

その結果、全員参加の安全管理としてライブ配信によるリモート管理などを提案した、平洗太氏、木村友里恵氏、中村哲哉氏、田中涼佑氏、佐藤拓実氏(西尾レントオール)のチームが最優秀賞に選ばれ、多々良哲弘技術研究所長から表彰された。

現場効率化へ意識改革 立命館流ワークショップ

三井住建道路

三井住建道路（蓮井肇社長）は五月二六日、同社社員一六名と建設機械レンタルの西尾レントオール（株）社員四名が共同で取り組む「建設イノベーションワークショップ」を実施した。

テーマは「自らの現場の効率化を考える」。立命館大学から総合科学技術研究機構・建山和由教授と経営学部・善本哲夫教授を講師に招き、参加者は四グループに分かれ

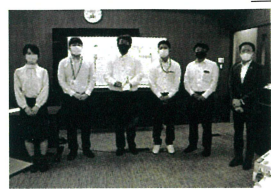


④挨拶する蓮井社長
①社長講堂受講メンバーと多々良所長（右端）

て議論を交わした。

冒頭、蓮井社長が挨拶に立ち、「DXに取り組み中で、個人の意識の差が技術導入促進の障害となつていないという課題が見えてきた。変化を伴う課題は組織も個人も自分事として取り組まないと進まない」と述べ、参加者を激励した。

続いて建山教授による建設業界を取り巻く環境の解説として、生産年齢



人口の減少や激化する自然災害、インフラの老朽化、3K（きつい・汚い・危険）の実情に関する講義が行われ、DXの必要性が訴えられた。それを踏まえて一人ひとりの意識改革が必要であるとして、立命館大学で学生や社会人も交えて取り組む人材育成プログラム「EDG E+R」の応用が今回のワークショップであるとする企画の意義についての説明も行われた。

参加者は三井住建道路の技術者二名と事務系職員一名、西尾レントオールでICT施工推進を担う社員一名の計五名を一グループとして四班に分かれ、「安全に、楽しく」ための現場の課題とデジタル技術を使った解決策を検討した。

約三時間に及びグループワークの後には班ごとの発表を行い、建山教授や善本教授、三井住建道路技術研究所の多々良哲弘所長の質疑を実施。運行管理システムによる特に具体性や実現性の観点から優秀な発表が表彰され、ライブ配信によるリモート安全管理や車両